

JR貨物 社員と家族の生活は置き去りのまま 第3回 「減収」を理由にベアを出せる状況にない 交渉 との考えは認められない!

本部は本日(3月11日)、国労闘申第6号「2021年4月1日以降の賃金引き上げに関する申し入れ」の第3回交渉を行い、現時点の「会社の考え方」について説明を受けた。

貨物会社は「JR貨物グループ中期経営計画2023」のもと、「鉄道輸送を基軸とした総合物流企業グループ」への進化を目指し、諸施策を推進する中、新技術・新規事業へ積極的にチャレンジし、社員のやりがいにつながる新人事制度の定着など、より働きやすい職場づくりを目指してきた。

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大による社会経済の低迷 自然災害に伴う輸送障害は、社員の協力のもと代替輸送等により、収入の確保に努めたものの、1月期計画に対して取扱収入が△約15億円と厳しい状況であり、「昇給額表による等級及び評価に応じた昇給は実施するものの、現時点、ベースアップについては実施できる状況にない」との考え方を明らかにした。



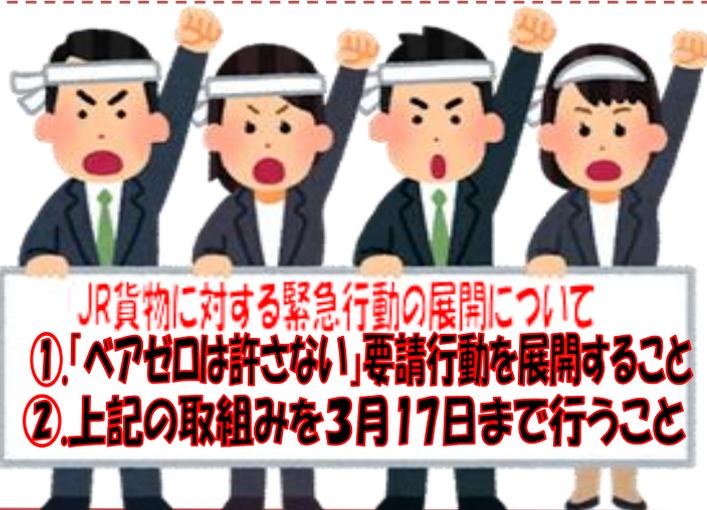
巨額の設備投資(2,080億円)をするなら 社員に投資もすべき!

今年度の落ち着いた見込みは、経常黒字は流動的なものの、来年度は「最高益の経常黒字に匹敵する」計画をすすめる中で、これまで同様、経営課題を前面とする自然災害の減収を理由に「ベアを実施できない」とする理由は、全く根拠とはならず到底受け入れられない!

私たち(家族含めて)が生きるためには働く以外に方法はない。労働者が経営者に労働力を売り、賃金を得る以外に方法はなく、「賃金」は自らの労働力を復元し、新たな労働力の担い手を生み出す再生産費である。労働者と家族ともに健康に生活し働き続け(食事、医療、住居、衣料など)、結婚し子供を産み育てるために必要な生計費である。

経営陣は「会社が大変だから」と主張をするが、それ以上に低賃金を押し付けられてきた貨物社員の生活も大変である。

経営陣の主張する経営課題や自然災害の影響などは、『ベアを実施できない』理由でしかなく、労働協約における「企業の発展」も「組合員の生活の維持向上」の「どちらも重要な課題である」との到達点の確認からも、改めて職場からベア獲得に向けた闘いを全力で取り組もう!



貨物会社に対し、緊急行動を展開! 闘争指示第30号により 定期昇給とは別で、 「ベア」の獲得に向け、 全職場から 取り組みを強めよう!

- JR貨物に対する緊急行動の展開について
- ①「ベアゼロは許さない」要請行動を展開すること
 - ②上記の取組みを3月17日まで行うこと